



テーマ「周産期から見つめなおす児童虐待：アタッチメント障害の脳科学」

講師：友田明美先生（福井大学子どものこころの発達研究センター教授）

はじめに

日本産婦人科医会母子保健部会では2016年度の重点課題として周産期メンタルヘルスケアの充実に取り組んでいます。今年度、厚労科学研究補助金にも採択され、また、木下勝之会長の推進するプロジェクトとしても周産期メンタルヘルスケアについて取り組むことになりました。

現在、周産期メンタルヘルスケアに関連して取り組んでいることは、①実際に周産期のメンタルヘルスケアに関わる産婦人科医に、その重要性を深く認識してもらうことと、そのケアを担う保健師、助産師の皆さんにより専門的な知識をもってケアにあたっていただくための教育研修システムを作ることです。さらに、②生まれた赤ちゃんとお母さんの愛着形成の段階のトラブルが色々な意味で子どもの成長や発達に影響を与えているという事実をもっと母親自身に知ってもらうために、母親学級などで周知できるようなコンテンツを作ることにも取り組んでいます。

今回は、この2つ目のテーマを詳しく勉強する目的で、福井大学子どものこころの発達研究センターの友田明美教授に、「周産期から見つめなおす児童虐待：アタッチメント障害の脳科学」というテーマでご講演いただくことになりました。

友田先生は福井大学子どものこころの発達研究センターの教授であり、小児科医として30年間にわたって子どもの発達に関する臨床研究を続けてこられた先生です。2009～2011年に日米科学技術協力事業のグループ共同研究の日本側の代表として、子どもの脳の発達、特にアタッチメント障害に関して科学的に実証する画期的な研究を推進してこられており、今回の講演では、母と子の愛着形成の障害が児の脳の発育や発達に具体的にどのように影響するかについて、最新のエビデンスをもとに解説いただきます。それでは友田先生、ご講演をよろしくお願い致します。

現在の日本の状況

福井から参りました友田です。ベースは小児科医で、今、児童精神科の研究や教育もやっております。今日は貴重な時間を賜りまして、誠にありがとうございます。

タイトルは「周産期から見つめなおす」となっていますが、実はもう周産期前から見つめ直さないといけない時代に入っているということをご理解いただきたいと思っております。

幸か不幸か、私たちの人生は1回しか味わえません。私もある人のライフサイクルは1回だと思いつつ、生きています。赤ちゃんを受胎して、オギャーと生まれて、親に子育てしてもらって、学校に入って、思春期をむかえ若者になり、そして大人になり男性と女性が出会って、結婚して、これが人生のいわゆるライフサイクルです。皆さんもその中にいます。しかし、このライフサイクルの現実がちょっとおかしな状態になってきています。

出生率は1.37です。安倍政権は1.7、1.8まで改善させようと言っていますが、なかなかうまくいきません。産後うつ病の罹患率は10～15%もあります。しかも、子どものマルトリートメント（不適切な養育）も含めた虐待件数は年々増加しています。そして子どもの体力、学習意欲は低下したままです。凶悪犯罪は減ったのですが、軽犯罪はリピートも含め増えています。そして思春期に好発する精神疾患、統合失調症が最近特に増えています。うつ病、そして摂食障害（食べない病気の拒食と過食≪bulimia≫）が思春期に出てきます。さらに、人間関係が難しくなり、人々のモラルの低下や人間関係をつくる能力の低下が起こり、その結果、引きこもるようになります。たとえ若者が社会に出て仕事に就いても、すぐ離職してしまうためニートが60万人以上もいます。そしてなんと恐ろしいことに、男性が草食化して家族建設意欲が低下しています。経済的要因もありますし、環境ホルモンの影響もあるかと思えます。つまり晩婚化や未婚化に加えて結婚しても子どもをつくらない。そして離婚率も増えています。そんな状況下で、安倍政権は女性に働きなさい、がんばって働いて、産業に貢献しなさいと言います。しかし、子育てが大変なので、子どもをもっと増やしたいと思っても増やせないのが現実です。これはスウェーデン、アメリカ、フランスや韓国に比べても、日本には依然として子育てにおける夫婦間の役割にギャップがあると思えます。

ここに1つだけ光明があります。2004年の『Nature』に出たおばあちゃん仮説、これ、おじいちゃん仮説でも良いのですが、ご存じですか？オランウータンやゴリラ、チンパンジー、こういう霊長類には、月経があり、妊娠・出産後に子育てをする、それをずっと死ぬまで繰り返しています。なぜか人間だけは更年期ができて、閉経後は自分の子どもを産んだり、育てたりできません。先の老後が長いわけですから、それはなぜかということ、結局孫を育てるため